

〈研究成果の紹介〉

## 三重県で栽培されているコムギ品種の赤かび病抵抗性

農業研究部 循環機能開発研究課

### 1. 成果の内容

三重県のコムギ栽培では「農林61号」に替わる品種として「あやひかり」、「タマイズミ」、「ニシノカオリ」の導入が進んでいます。これまで品種の選定に当たり、製粉適性、加工用途の有無が重要視されてきましたが、赤かび病菌が産生するデオキシニバレノール(DON)を代表とするかび毒の穀粒汚染による健康被害が問題となっている昨今、栽培する品種の赤かび病抵抗性程度について注意する必要があります。そこで、県内に栽培されているコムギ4品種の赤かび病に対する抵抗性程度を評価したところ、品種間差が認められましたので、報告します。

#### 1) 研究部内の圃場検定

標準品種である「農林61号」の赤かび病の発生が少～中発生の条件において、「あやひかり」、「タマイズミ」は発病穂率(図1)、発病度、被害粒率およびコムギ粒のDON濃度が「農林61号」、「ニシノカオリ」に比べ高い傾向がありました。

#### 2) 一般栽培圃場の調査

「あやひかり」、「タマイズミ」は、赤かび病の発生が「農林61号」、「ニシノカオリ」より多い傾向がありました(表1)。

以上のことから、「あやひかり」、「タマイズミ」、「農林61号」、「ニシノカオリ」の4品種はいずれも品種特性として赤かび病抵抗性が同じ中程度とされていますが、「あやひかり」、「タマイズミ」は「農林61号」、「ニシノカオリ」に比べ抵抗性が弱く、コムギ粒のDON汚染の危険性が高いと考えられます。

#### 2. 技術の適用効果と適用範囲

コムギの栽培品種に応じた赤かび病の防除およびDON汚染軽減対策の参考となります。

#### 3. 普及・利用上の問題点

「あやひかり」、「タマイズミ」は、栽培圃場で赤かび病の多発が予想される年は、品種として抵抗性が弱いため、薬剤防除を主体とする防除対策の徹底を図る必要があります。

(黒田克利)



写真1 コムギ赤かび病の発病穂

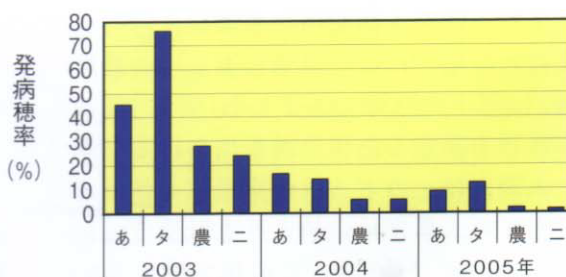


図1 圃場検定における赤かび病の発病と品種間差  
あ：あやひかり タ：タマイズミ 農：農林61号 ニ：ニシノカオリ

表1 三重県で栽培されるコムギ品種の一般栽培圃場における赤かび病の発病

品種	2003年		2004年		2005年	
	調査圃場数	発病穂数/圃場*	調査圃場数	発病穂数/圃場*	調査圃場数	発病穂数/圃場*
あやひかり	40	22.0	62	66.7	7	0.2
タマイズミ	50	10.5	94	11.0	61	0.0
農林61号	162	6.5	70	0.6	37	0.0
ニシノカオリ	28	5.6	90	1.2	51	0.0

注) \* : 1圃場約30㎡当たりの発病穂数の平均値

調査方法：収穫期に畦畔にそって約1m(3条)の幅で30mの全穂を対象にスポロドキアを確認した発病穂数を調査